

個人質問

教育は国家の根幹である！

宮間 文夫 議員



問 学校現場の現状について

答 学校に配置される教員数は、公立小中義務教育学校定数配置基準により定められており、標準学級として令和5年度は小学校1年生から4年生までは1クラス35人、小学校5年生から中学校3年生までは1クラス40人を基準として、各学級に担任1名が県費負担教職員として配置されることとなっております。また、学級担任のほかには定数配置基準に則った増置教員、教育委員会や各校からの要望を基に様々な条件に応じて配置される加配教員や派遣職員のほか、校長、教頭、養護教諭、栄養職員、事務職員が配置されることとなっております。

本市の小・中学校では、現在の定数配置基準に則った教職員が適切に配置され、定数を満たしているところですが、また、教職員を退職された方々が講師として教壇に立っていただいている状況もあります。充実した教育活動を展開していくために今後も有能な教育人材の確保を目指して、市教育委員会としても県教育委員会等と連携して取り組んでまいりたいと考えております。

問 市の予算で会計年度任用職員を雇用することについて

答 市では、県費負担教職員を補助し、特別な支援を必要とする児童・生徒に対して学習活動上のサポートや学校における日常生活動作の介助を行う特別支援教育支援員を配置しております。

この支援員の存在は、子どもたちにとって安心して学習や学校生活に取り組みることができるように、教職員にとっても役割を分担することで、より効果的な授業が展開できる

など、良好な成果を上げているものと認識しているところでございます。なお、支援員の配置につきましては、学校からも増員してほしいとの要望をいただいていることから、今年度は昨年の21名から3名増員し、現在、24名の支援員を採用し、市内の全小学校に二ノスに定数配置をしております。

このほか市では、市内中学校3校に子どもと親の相談員を1名ずつ配置し、生徒や保護者からの相談を受けたり、適切な助言をするなど、中学校生活が円滑に行われるよう支援を行っております。

不登校やいじめなどの未然防止と早期対応を図るため、様々な悩みを持つ子どもたちに寄り添うことで、生徒指導の面からも効果的な役割を担っているところでございます。また、外国人の外国語指導助手、いわゆるALT4名を派遣契約し、小・中学校の英語指導の充実のために各小・中学校で活用しております。

今後こうした支援員や相談員等の配置を継続するとともに、本市の厳しい財政状況を踏まえつつ、子どもたちや教職員のために、必要な人材の確保に努めてまいりたいと考えています。

問 大型商業施設との連携について

答 大型商業施設内に図書室を移転してはどうかのご質問でございますが、図書館として利用可能な面積や静粛性があるか、書架や書籍の重さによる床の耐荷重があるかなど、移転先が図書機能を有しているかといった課題があります。また、図書館の運営、体制などの見直しだけでなく市役所の組織改革等も考慮し、研究してまいります。

個人質問

①公共交通 ②介護保険 ③永田駅 ④水道料金 ⑤新ごみ焼却施設

蛭田 公二郎 議員



①公共交通

問 市が行った公共交通のアンケートに際して、市は、燃料費の高騰などで維持が大変だというふうになっている。では、市の財政支出は一体どれ程大変なのか。コミバスとはバス、それぞれごとの令和4年度の委託料、収入としての運賃収入、国庫補助金など、内訳について説明いただきたい。

答 はじめに増穂コミュニティバスは、運賃経費となる委託料1,845万4,000円と印刷製本費3万7,000円の支出合計1,849万1,000円に対し、運賃収入が472万8,000円、国庫補助金が721万4,000円、特別交付税が629万6,000円、広告収入が14万7,000円、合計で1,838万5,000円の収入があったことから、市の実質的な負担額は10万6,000円程度になります。

次に、はまバスにつきましては、委託料611万1,000円と印刷製本費1万6,000円の支出合計612万7,000円に対し、運賃収入が90万3,000円、国庫補助金が154万4,000円、特別交付税が286万5,000円、広告収入が9万円、合計で540万2,000円の収入があったことから、市の実質的な負担額は72万5,000円程度になります。

今ご説明頂いたように、増穂コミバスと、白里コミバスのはまバス、2つのコミバスが走っていますけれども、委託料から、運賃収入があつたり、あるいは国からの補助金、特別交付税などがあつて、増穂コミバス、これは市が支出しているのは年間約10万円です。この10万円を基

本的には走っているんですね。白里約70万円位ですか、両方合わせても100万円位ですよ。それで、さっき言った「燃料費の高騰により、これまでどおりの公共交通を維持することが難しくなった」と、今みたいなことを市民の皆さん知らないから「大変なんだな」と。燃料費の高騰でそういうふうにありますよ。

私、千葉県がつくった資料、コミバスとかデマンド交通で各自自治体がどれだけお金がかかっているか見てもやっぱり公共交通にはそれなりにお金かけているんですね。私は今、市が財政難ですから、ただ「お金をかければ良い」というように言っているのではなく、今、大網白里市の公共交通の最大の問題は何かという一言で言えば、私は公共交通にあまりにもお金をかけていない、これが最大の問題だと思えます。

公共交通整備は、高齢者の移動の確保だけではなく、まちづくり、児童・生徒の安全保障、地域コミュニティづくり、公共交通を利用できない人たちの外出機会の確保など、全ての世代、全ての地域の課題がこの公共交通の問題です。住民が生き生きと暮らしていける条件として、地域交通の確保は欠かせません。公共交通空白地域解消のために、早期に対策の実施に取り組んで頂きたい。

以上、①公共交通の他に、②介護保険では、基金を活用した介護保険料の引き下げを求め、③水道料金は、再来年予定の水道事業統合の見直し、家庭用水道料金の値下げ、④永田駅では、トイレ復活と外房線の快速電車の停車を求め、⑤ゴミ焼却場問題では、ゴミの減量、特にプラ資源の分別・回収などを求めました。

個人質問

郷土偉人の顕彰と市の文化資産を融合させた新しい観光地づくり

岡田 憲二 議員



問 十枝の森入口にある百坪の市有地を駐車場にと、検討するようにお願いいたしました。どこまで進捗しておりますか。

答 7月に関係各課を集め、整備に関する検討会議を開催し、駐車場整備に必要な境界確定測量、十枝の森に関する整備計画の作成、農地転用手続など、円滑な事務作業となるよう各種申請等に係る内容を確認したところであります。

問 篆刻界の巨匠の石井雙石翁は主に官公庁関係の印章を手がけ、昭和38年紫綬褒章、同40年に勲四等旭日小綬章を授与されております。奇しくも十枝の森入口に、もう一人の本市の偉人たる十枝雄三翁の胸像が建てられており、そこからすぐに石井雙石翁の顕彰碑が建てられています。これを一つに融合して、周辺を整備し、きれいにすれば良い観光地になると私の主張するところでありますが、市側はどのように考えますか。

答 顕彰碑周辺の維持管理を行っていますが、樹木が生い茂り、県道正気茂原線を往來する車両からも顕彰碑が見えづらい状態となっているため、樹木の枝打ちなどを実施し、名所として良好な景観整備に努めてまいりたいと考えております。

顕彰碑と十枝の森の一体的な活用については、隣接する顕彰碑と十枝の森の2つの文化資産を一体的に活用していくため、どのような活用方法が効果的であるかなどの検討を行うとともに、駐車場の整備につきましても、十枝の森入口の市有地を活用した場合と、現在の駐車場を整備した場合の費用比較、来訪者の利便性、安全性などの検証や課題を整理した上で、有用性のある駐車場整備

を検討してまいります。

問 石井雙石翁の顕彰碑と十枝の森に行く間の道を整備することが必要と考えますか。

答 現在の駐車場を整備する場合、駐車場の整備期間が短縮できたり、費用を抑えたりすることが可能であると考えられます。

その際、現在の駐車場から十枝の森へのアクセス道の整備として、スロープの設置や橋の架け替え、案内看板の設置なども必要であると考えます。

問 石井雙石翁の顕彰碑から舗装されているところを越えて十枝の森に入るわけであるが、道らしきものはあるが、整備されていない。木材をチップ状にしたものを敷き詰めて整備すれば、十枝の森の景観に融合した良いところになると思いますが、市側の考えはどうですか。

答 議員ご提案のとおり、ウッドチップ等を敷くことで景観を損なわず、来訪者の動線としても有効であると考えます。



石井雙石顕彰碑 (平成11年建立)